

蛍と川

夏のイベントといえば、海水浴、花火、すいか割りなど様々なものがあります。私は毎年家族みんなで家の近くの川で蛍を観ることを一つの楽しみにしています。家から歩いていくと、ぽつぽつとほのかに光が見えてきます。すると私は嬉しくなり、少し足早になつてしまします。夜の川に集まっている蛍たちは冬のイルミネーションにも負けないくらいきれいで、毎年観ているにも少しも飽きません。しかし、ここ数年間毎年のように、「去年よりも蛍の数が少し減ってない？」という話題が家族の中であがります。このままでは私の夏の楽しみがなくなってしまうのではないかと、そう心配になつて蛍が減つてきている原因を調べてみました。

すると、河川の汚れが蛍の減少と大きく関わっていることがわかりました。特に中性洗

五條市立五條東中学校 二年

田中 佑奈

剤が普及して、それが川に流れ出てしまうことや、農薬や化学肥料の使用によって汚染が進んでしまうことが蛍の減少の原因にあるようです。これらのものが流れ出てしまうと水の中に溶け込んでいる酸素の量（溶存酸素量）も減つてしまい、蛍だけではなく、魚の餌となるカワニナや他の水の生き物たちも窒息することができなくなります。

では、これらの原因を人間はすっきり取り除くことができるのでしょうか。中性洗剤は台所用・洗濯用・掃除用など私の家にもたくさんありますし、日常生活の中で当然のように使っているものです。そして、農薬や化学肥料も農業をさしている方にとっては安定的に作物を作るのに欠かすことのできないものです。まったく使わなくなることは考えにくいのが現実です。

これまでも水を汚さないための対策はされてきました。たとえば工場からの産業排水が汚染の大きな原因だった時代もありましたが排水への規制が強化され、処対策が進んだことで産業排水は水の汚染の一番の原因ではなくなりました。これは社会問題として、国や地方自治体、企業が「規制をする」という取り組みやすい内容だったのかもしれない。しかし、生活排水や農業のような個人の価値観や意識が問われる問題に対しては、「規制」をするのではなく、一人ひとりがその問題を正しく認識して、適切なマナーを身に付ける必要があるのではないのでしょうか。例えば私が気を付けるようにしていることは、できるだけ分解性の高い石鹼を使うように家族に提案したり、米のとぎ汁を植木や鉢植えにあげたりすることで汚れた水を排水口に流さないようにする工夫をしています。また、それ以外にも牛乳などの飲み物は最後まで使い切って流さない、油で汚れたフライパンは先にペーパータオルでふき取るなど、少し気を付けるだけで簡単に取り組めることがたくさんあります。

私は家族で蛍を観に行くのが大好きです。そして私の暮らしている地域に蛍が住めるくらいきれいな川があることを誇りに思っています。この環境をどうにか後世にも引き継いでいきたいです。そして水は私たち人間にとっても、虫や魚、植物などの生き物にとってもかけがえのないものです。みなさんで水を考えるみませんか。